令和５年３月２８日

令和４年度　東京都立上野高等学校　学校経営報告

東京都立上野高等学校長
吉　田　寿　美

１　学習指導

進学アドバンス校として、質の高い指導により、全ての生徒に進学に向けた学力の定着を図ることを目標に、①1･2学年での英語･数学の習熟度別授業、各学年2クラスの特別進学クラス編成、土曜講習、講習、勉強マラソンなどで、生徒の学習意欲と進学に向けた学力の向上と幅広い知識と確かなコミュニケーション能力の育成、②朝学習、放課後・長期休業中の講習、勉強マラソン及び土曜講習等で生徒の学習意欲を高め、学力を向上させるとともに、更に自習室を活用し、主体的な学習習慣を身に付けさせること、③各教科・科目において読書活動の推進や言語活動の充実を意識した活動を取り入れ、豊かな教養を身に付けさせるよう取り組んだ。

今年度の実力テストでは、全学年ともに、英語・数学・国語の３科目において成績の堅調な伸びが見られた。また英語教育研究推進校である本校では４技能をバランスよく伸ばすことを目標とし、第１・２学年全員が GTEC の英語検定を受検している。今年度は会話を重視した英語授業により特にスピーキングとライティングにおいて伸びが見られた。

本校で学ぶ魅力を感じられる探究的な学習の時間「上野学」が本格的に始動し、探究の時間に、大学院生・大学生に来ていただき課題解決を進めた。さらに思考力・判断力・表現力の基礎を築く読書活動を朝学習中心にとりいれた。３月には早稲田大学教授はじめ外部の方を招いた発表会を実施することができた。来年度は、外部人材を活用し、体験活動や探究活動を軌道に乗せ、より発展させることが目標となる。

教科主任会、校内研修会を中心に、授業改善、新教育課程編成、観点別評価について話し合い、学校全体での共通理解を深めた。今年度は、今後各大学が発表する入試科目の発表を受け、新教育課程における３学年の選択科目の最終決定を行った。また、新教育課程の年間授業計画と単元指導計画を作成し、観点別評価を実施した。

学校評価アンケートでは、基礎・基本の学力の定着、に関する肯定的回答が、生徒８割近く、保護者７割、教職員９割超え、応用力の定着に関する肯定的回答が、生徒・保護者ともに６割位、教職員９割であった。基礎・基本、応用力ともに、昨年度に比べて保護者の肯定的な回答が増えている。

来年度は授業から家庭学習につながる指導、自学自習できる学習者の育成により、家庭学習の時間を増やすことが課題である。応用力育成では、授業以外の家庭学習の位置付けが大きく影響する。

２　進路指導

進学アドバンス校の集大成として、希望を高くもち、最後まであきらめさせない進路指導の充実を図る指導の完成年度として、①卒業生による「フロンティア講座」、大学教授等による「大学出張授業」、「進路だより」等で自己の将来の在り方生き方を考えさせるなどのキャリア教育の推進、②「総合的な探究の時間」を中心に全教科による自らの課題を発見し道筋を立て、解決していく幅広い知識の獲得、思考力・行動力を育成するとともに、発表活動による確かなコミュニケーション能力の育成、③生徒全員が一体となって、国公立大学、難関私立大学等への進学希望実現に向けて取り組む体制を作ることに重点を置いた。

進路指導部・教科・学年が一体となり、年間を通じて様々な働きかけの中で生徒を支援した。１学年対象の「東大訪問」１・２学年対象の「研究室訪問」など新型コロナウイルス感染症により中断していた体験活動も復活した。また新たな取組として１年生は起業コンテスト「高校生 RING」に参加するなどの活発な体験活動によりキャリア意識を高めさせた。

学年別の進路通信「羅針盤」を毎月発行し、その都度 HP にも掲載した。共通テストを経験した大学生チューターも全面協力し、在校生へのメッセージ、学習法、試験対策についてのアドバイスを行い、在校生の不安解消に対応した。

今年度も、朝の開室、土曜日の開室等により、自習室の活用の推進を図るとともに、教育庁指導部、研究会、他校の授業参観等からのアドバイスや情報を、学校として共有することに努めた。

進学実績は、国公立大学、早慶上理、GMARCH、日東駒専と全体的に好調であった。国公立大学の中期・後期に挑戦し合格した生徒も目立った。進路決定率は９３％であり、３学年の多くの生徒が、自身が納得する進路先に進むことができた。

学校評価アンケートの進路指導では、指導内容に関する肯定的回答は、生徒・保護者ともに７割半位、教職員９割超え、保護者連携状況に関する肯定的回答は生徒・保護者ともに７割半位、教職員８割半位であった。特に、３年生生徒の肯定的回答が目立った。

来年度も、キャリア教育の視点をとりいれた、組織的・計画的な進路指導を進めていく。

３　生活指導

規律と思いやりのある学校生活の向上を図ることを目標に、①場に応じた適切なふるまいを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度を育成するとともに、自分で考え判断し実行する自己指導能力の育成を図ること、②カウンセリング委員会を中心とし、スクールカウンセラーや特別支援教育心理士との連携を深め、個々の生徒の状況把握に努め、SOS 発信の対応、個別の支援教育、いじめ未然防止など、組織的かつ迅速な対応ができるよう校内体制を強化することに重点を置いた。

生徒手帳記載の生徒心得、身だしなみについて教職員が共有している規定の内容を整理し、教職員の共通理解が深まった。今後も合意形成に努め、生活指導の向上に努める。

「SNS 上野ルール」を１年生に周知し、体育祭や文化祭等の広報活動を行う際の参考にさせた。SNS によるトラブルやいじめが起こらないよう、HP への掲載・集会における指導・リーフレットの配布も行った。

遅刻者を減らすため、朝の健康当番以外にも、教員による呼び掛けや学年生活指導担当との状況の共有や指導を行ったが、遅刻者は引き続き多い傾向があり、引き続き学校全体での指導が必要である。

年度当初の１年生のカウンセリング面談による生徒の状況把握と初期対応、年３回の全校いじめアンケート、特別支援教育心理士も参加する定例カウンセリング委員会により、個々の生徒対応の充実に努めた。今年度開催されたコミュニケーションアシスト講座に２名参加した。長期休業中の際には見守りが必要な生徒の情報共有を図り、保護者やスクールカウンセラーや心理士との面談をもちながら、生徒への対応にあたった。

学校評価アンケートの生活指導では、指導内容についての肯定的な回答は、生徒・教職員ともに７割超え、保護者６割近くであった。

来年度も、規律と思いやりのある学校生活の向上に向け、教職員の合意形成に努め、指導を行っていく。また、本校の生活指導方針・内容や相談窓口の保護者への周知に努める。

４　特別活動・部活動

上高生としての自覚と誇りを育成することを目標に、①ホームルーム活動・有志活動・委員会活動を活性化させ、生徒主体の活動を通して、思考力と行動力、人間性と社会性、自己実現できる能力を育成すること、②規律ある活動により部活動の一層の活性化を図るとともに、学習と部活動との両立、折れない心の育成を目指し、学校生活の充実と生徒の可能性の伸長を図ることに重点を置いた。

新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、安心・安全に基づいた適切な実施要項を検討し、運動会・文化祭・セーフティ教室・不忍駅伝・球技大会などの学校行事や部活動を行った。生徒が、周囲と創意工夫して何かを創り上げる体験が徐々に増えてきている。部活動加入率は、９３．５％と、昨年度より増加し、運動部・文化部ともに、日々練習に励んでいる。その中で、男子バレー部関東大会出場、文芸部・美術部の全国大会出場という素晴らしい結果が出た。文化部の甲子園とも言われている令和４年度全国高等学校総合文化祭の委員会に携わる教員や生徒も複数おり、総合文化祭を成功に導く力となった。

地域と連携した防災体験活動を実施し、消防署・消防団の方々の協力を得て、防災教育推進委員会を中心とした防災訓練を実施した。

学校評価アンケートでは、特別活動・部活動に関する肯定的な回答は、生徒７割半、保護者６割半、教職員９割であった。学校行事をもっとやりたいという生徒の意見が多かった。

来年度は、新型コロナウイルス感染症による活動制限も徐々になくなると予想される。高校生だからこそ体験できる特別活動や部活動で、精一杯力を発揮してほしい。

５　健康づくり

体力を向上させ、心の安定を図り、社会の発展に貢献し得る心身共に健康な人間を育成することを目標に、①生徒と教職員、教職員とスクールカウンセラーや心理士との連携を深め、個々の生徒の状況把

握に努め、SOS の発信への対応、個別の支援教育、いじめ未然防止など、一人一人に応じたきめ細かい指導を実施し、心身の健康増進に努めること、②検温・健康観察、清掃、消毒、ゴミの分別・減量等による安全・安心な学習環境を目指すことに重点を置いた。

生徒の心身のケアに努めるためのカウンセリング委員会を中心とした校内体制の充実に努めた。新型コロナウイルス感染症対策に必要な物品を確保し、毎朝の検温・健康観察の徹底、消毒作業と、継続して気を緩めることなく対応を継続した。新型コロナウイルス感染症対策のため始まったゴミの持ち帰りは、ゴミの減量効果があるので、環境問題の観点からも引き続き教育的指導を行う。

学校評価アンケートの健康安全に関する肯定的回答は、生徒・保護者・教職員ともに、９割である。

来年度は、都立高校全校導入のコンディションレポートへの対応もある。自分自身の健康管理に気を配れるような力を育てる。

６　募集・広報活動

地域に信頼され支えられる活気ある学校づくりを推進することを目標に学校公開・外部説明会への参加、学校案内や HP の刷新等、広報活動を積極的に進め、本校の諸活動への理解を広めていくことに重点を置いた。

「文化の杜上野で学ぶ」の謳い文句による、新教育課程や探究的な学習を取り上げた学校案内に刷新した。また HP をリニューアルし、部活動・校内活動等について幅広く情報を発信した。校内の見学会・説明会は、「視聴覚室で、１回の人数は絞り、複数回実施する」という方法を継続し、教職員だけが説明する構成ではなく、生徒による部活動紹介や DVD による学校紹介・学校案内を実施し、生徒の実態を目にすることができた来校者からは好評であった。

入学者選抜の応募倍率は、推薦応募倍率２．８倍、入選一次最終応募倍率１．８倍と高倍率を保っている。

７　学校経営・組織体制

伝統の上に新しい上野高校を作り上げる組織の強化を図り、進学アドバンス校の集大成を飾ることを目標に、①「学校経営計画」「進学アドバンス校」「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」「創立１００周年に向けての準備」等、各教職員が取組意識を共有して教育活動を実施すること、②管理運営規程に基づく企画調整会議を中心とした組織の協同体制で学校運営に取り組むこと、③教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底することに重点を置いて取り組んできた。

今年度も、校務分掌内、分掌間の連携を深め、校務運営の活性化を図ってきた。今後も、教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を順守すること、閉庁日、定刻退庁日、会議や業務の効率化により、ライフ・ワーク・バランスを推進することについては引き続き指導していく。創立１００周年に向けて、今年度は校内の物品・資料整備を行った。来年度は、周年誌の編集・記念式典を具体化させ、準備を進めていく。

８　数値目標　　（　　）内は昨年度実績

			【目標】	【結果】
①	生徒の家庭学習時間	３年生	３００分（２５５分）	２４８分（２学期）
		２年生	１５０分（１０２分）	７７分➡８６分（２・３学期）
		１年生	１２０分（６９分）	６８分➡７３分（２・３学期）
②	大学入学共通テスト５教科受験		８０人（６３人）	７０人
③	大学入学共通テスト８０％得点者		１５人（０人）	０人
④	進路決定率		８０％（９３％）	９３％
⑤	国公立大学の現役合格者		５０人（３７人）	５０人
⑥	早慶上理 ICU 現役合格者		５０人（３０人）	４１人
⑦	GMARCH 現役合格者		３００人（１９５人）	２２０人
⑧	学校評価の生徒、保護者満足度		８０％（７５％）	７５％